



味ひとすじ
むら **むら** 月
新京都橋上・でんわ 221-2412

支那 からの 手紙

学校や地域で防災教育に取り組む子どもや学生を顕彰する「ほうさい甲子園」(毎日新聞社、兵庫県など主催)の応募受け付けが始まりました。詳しくは2日朝刊の1面社告、24面特集をご覧ください。

これは、次世代を担う子どもたちの防災意識を高めたいという狙いで、阪神大震災10年の04

年度から始まったものです。昨年度は、宇治市立平盛小学校の子どもたちが、劇団「衛星」と協力した防災劇で「希望賞」に輝きました。今年も多くの応募を期待しています。

さて、その時に知り合いになった平盛小教諭の糸井登さん(48)から最近、メールをいただきました。「京都橘大学(山科区)准教授

の池田修さんと一緒に『明日の教室』という教育サークルをつくりました」という内容です。

若手教師や教師志望の学生らが集まり、全国からさまざまな講師をお招きして一緒に話し合っていくという狙いです。4月から月1回のペースで開催しており、5月は美術家の岩井成昭さんが講師でした。

糸井さんによると、昨年、大学生を前に話をする機会がありました。学生の中に、教育に対するやる気と同時に、「今の自分で大丈夫だろうか」という不安があるのを感じ取ったそうです。確かに、実際の教育現場に立った新任教師の戸惑いは容易に想像できます。すべてにおいて正解が一つとは限らないわけですから。

糸井さんは教師生活25年のベテラン。それで

明日の教室

も糸井さんのブログを拝見していると、日々いろいろな悩み考えながら教師をされていることが伝わってきます。今は、行政によって新任教師のために多くの研修が用意されていますが、現場からこういう動きが出てきたのは素晴らしいことだと思います。

「明日の教室」という名前も、「明日の授業をどうするか」という意味のほかに、未来の教育について共に話し合おう、という意味も込めているそうで、いいネーミングですね。

今回は6月23日午後1時半～5時、山科区の京都橘大学児童館理科室で。内容は、奈良県広陵町立広陵西小学校教諭の土作彰さんによる「明日から使える『ミニネタ授業』(仮題)。会費は一般2000円、学生1500円。申し込みは、<http://homepa.ge.mac.com/ikedasamu/>から。

ベテランから新任の教師へ、さらに教師をめざそうとしている学生へ。単なるテクニクではない、さまざまな思いが伝わっていけば、と期待しています。これは教育現場だけの話ではないでしょう。次回は、私も参加しようと思っています。

【学研・宇治支局長 三野雅弘】